

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500015		
法人名	社会福祉法人 清浄会		
事業所名	グループホーム なびき		
所在地	福岡県宮若市下有木1507-1		
自己評価作成日	平成23年12月3日	評価結果確定日	平成23年12月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成23年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然な環境の中の散歩や、畑仕事、花壇の手入れや、ホーム内では食事の支度や片付け、清掃活動、洗濯物たたみなど生活リハビリを中心に役割を持っていただいたり、趣味の貼り絵、将棋、絵画、書道など楽しまれています。又、毎朝の体操など行いながら、運動をしていただいたり、同法人でのカラオケや、誕生会、民謡教室など、通リハの方達と一緒にいき、月の行事では、季節に合った行事や、外出なども行き社会との関わりを多くもっております。

開設10周年を迎えたグループホームなびきは理念に「みんなでその人らしさを大切に笑顔で寄り添う」を掲げ、センター方式を活用しながら一人ひとりに合ったケアに取り組んでいる。「仕事に行って来る」と外出傾向のある入居者は、職歴を活かした声掛けで穏やかな生活が送れたり、趣味が続けられる環境づくりで絵画が再開した入居者もあり、家族から驚きや喜びの声が寄せられている。法人全体で権利擁護について学び、入居者や家族に対して丁寧な対応を実践した成果である。また、終末期の支援では、家族から「ここまでしていただいて」と感謝され、入院に至った入居者もあり、今後は地域の医療機関と介護事業所が連携した終末期の支援体制づくりが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 1号館／グループホーム なびき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で唱和し、その人らしさを大切に対応できる様に意識している。	理念について全職員で話し合い、毎朝唱和している。入居者一人ひとりのニーズに応えるサービスの提供のため、生活歴や職歴を生かしたレクリエーションを企画するなど、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設へのカラオケ、民謡の参加、又、書道教室へのボランティアの先生の参加、地域への行事への参加や、散歩時等、地域との交流を行っている	毎年、近くにあるなびきホールの作品展に、利用者の作品を出品して、参加するのを楽しみにしている。地域の小学校6年生の社会見学や民生委員の見学を受け入れている。散歩の途中「柿持って行き」と声がかかるなど、近隣の住民との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域認知症サポーターの養成に参加し支援している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所の方や民生委員の方、家族の方、他施設の方など参加され情報を頂き、参考にしている。	2カ月毎に、家族の出席できる日を優先して開催している。地域の派出所や職員の参加があり、入居者は交代で参加している。ホーム行事開催の目的や事故防止についての取組み等説明し、家族代表から、行事の運営等、裏方の仕事や苦勞が理解できてよかったとの声が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加や認知症サポーターの支援会議などでの打ち合わせや電話など頂きながら協力関係を築いている	市主催の認知症サポーター養成講座に関わり、グループワークで助言している。参加している同業者協議会であるGH宮若は市と連携しながら研修やふるさと祭りを開催している。入居状況の報告やケースワークとの情報交換等をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、苑内・外部研修に参加したり、ミーティングを行ない、身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は遅出の方が帰る時に夜勤者のみとなるので施錠を行う。朝、開錠を早出の方が来る前に、内側の施錠は早出が来てから開錠する	系列法人研修で高齢者権利擁護指針について学び、具体的な虐待行為について話し合いを重ねている。指針を掲示し、朝礼やミーティングで確認している。外出傾向がある入居者には、玄関にセンサーを設置し、見守りや声かけで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内・苑外研修に参加したり、ミーティングを行っている。又、朝礼時、皆でコンプライアンスルールを唱和している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修などに参加し学ぶ機会を作っている 家族などには家族会等で説明している	家族会開催時にパンフレットを配布し、権利擁護に関する制度を説明するなど、相談しやすい雰囲気作りをしている。家族より、成年後見制度利用について相談があり、関係機関と協議しているが活用には至らなかった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、運営推進会議や、面会時等にお聞きし、反映している	年1回家族会を開催している。職員が企画、運営を担当し、次回の開催を楽しみにしている家族が多い。利用料納入に月1回来所する家族から、入居者の今後の生活の相談を受けることが多い。入居者の嗜好調査から、コーヒーを提供したり、地域の神社の参拝に出かけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどを行い反映している	ミーティングでは系列法人の代表者会議の内容が伝えられている。職員の気付きや提案で、入浴出来る車椅子、手すりの取り付け、分別洗いの洗濯機等を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加や、資格修得の環境を整えるなど向上心を持って働けるよう支援している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に性別、年齢は関係なく行っている。又、働く職員についても、社会参加など、配慮している	職員はハローワークで募集している。60歳を定年としているが、本人の希望で延長できたり、出産後に職場復帰する職員もいる。内外の研修が周知され、資格取得を目指す研修受講者や育児中の職員のシフトに配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	苑内研修や、外部研修などに参加し学ぶ機会を作っている	系列法人で、研修が企画され、認知症高齢者の人権について学んでいる。具体的な虐待や身体拘束の事例に添って、日々の生活支援で実践できるようミーティングで確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH宮若の方や、見守りネットワークなど、同業者との交流を持ったり、笠松の郷との人事交流など行いサービスの質の向上に取り組んでいる		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用時に、本人様が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、安心を確保するための関係づくりに努めている。センター方式を利用している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前での面接時や、契約説明時など、家族等が困っていること、不安なこと、要望等をお聞きしたり、面会時などにも日頃の様子など状況をお話ししながら関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神面や、医療面などその方に必要なサービスを見極め、支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に食事をし、一緒に暮らす家族のような関係であり、お互いに癒されたり、励まされたりしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族は情報を共有しながら、利用者様を共に支えていく関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、一緒に食事や、パーマ屋さんに行かれたり、法事など外出をされている。又馴染みの場所を行事に取り入れ、外出計画などをたてている	退院時の担当者会議に出席したり、ケアマネジャーから情報を収集している。馴染みの美容院に出かけたり、総代を務められた神社の行事に参拝する等、入居前の生活を継続できるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でお話しされたり、相談に乗られたりされる場面の環境作りなど支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での退所など、退所後も面会に行き、状態の把握や、本人様や家族の方とのコミュニケーションをとったり、退院後の相談なども支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ、ミーティングや、家族の協力を得ながら行っている。	センター方式で本人の思いや意向を把握している。入居前の趣味であった習字、散歩、絵画等が継続できる環境づくりに努めている。環境を整えることで、出来ることが増え、ホームでの生活に落ち着きが出てきた入居者もある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、出来ることをしていただきながら現状の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに見直し、会議を行って介護計画を作成している。家族の意見なども面会時など聞いている。	入居者の療養録には介護計画や受診記録が添付され、全職員で情報を共有している。担当職員が毎月モニタリングを行い、課題や意見を集約している。3カ月毎に家族の意向や職員の意見を検討しながら、介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングや、ミーティングなどを行い反映している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や、病院受診、又、併設の施設の管理栄養士や、リハビリのOTセラピストからの助言などいただきながら支援している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護や、病院受診、又、地域で行われる展示会の参加や、見学など行かれたり、小学校との交流会を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向も汲みながら、かかりつけ医など関係を築き、支援している。	かかりつけ医の受診は家族同伴だが、緊急時等は職員が同伴するなど柔軟に対応している。受診時は入居者の身体状況を伝え、連携に努めている。受診記録は個人の療養録に綴り、職員間で情報を共有し、家族に伝えている。	さらなる医療連携を促進するために、医療関連記録の様式の検討をお勧めします。
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常や、気づきなどある時は看護職員に連絡し指示を仰ぎ、受診が必要な時はすぐに受診している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時等、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いなどを行いながら、本人様にとって良い方向になるよう支援している	医療連携体制に関する指針や看取りに関する指針を整備している。ホームにおける看取りではなく、地域の医療機関と介護事業所が連携した終末期の支援体制づくりを検討している。家族から「ここまでお世話してもらって」と感謝されて、入院に至ったこともある。	指針に沿って、入居者の状況や変化に応じた話し合いが円滑にできるように、記録様式の検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修での緊急時の対応や、消防署の救急訓練など行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火委員会を中心に消防署と連携した消防訓練や緊急連絡網の訓練など行っている。又、地域の方達とは、行事の関係など、交流を深め、協力を頂いている	地域消防署の協力のもと、年2回、昼間と夜間の災害発生を想定して、連絡や避難訓練を実施している。スプリンクラーや自動通報装置を設置し、敷地内の施設と協力体制をとっている。職員は救急蘇生法やAEDの講習を受講している。水、食料を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼でコンプライアンスルールや、理念などの唱和をし、意識付けなどを行っている	視力の弱い入居者の対応や入浴介助に対する個人の希望の把握などで、職員が同じように対応できるよう情報を共有している。入居者も担当の職員の名前を呼ぶなど、安心できる関係づくりをしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	嗜好調査を行い、メニューの中に取り入れたい、散歩や、お参りに行きたいなどの希望があった時などは行ったりしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合わせた時間の食事や、起床時間、又入浴や、やりたい事など希望がある時は優先してできるよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の方の髭剃りや、毎朝の整容や服装など、身だしなみの支援をおこなっている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る場面の環境作りを行い、利用者様と一緒に食事の準備を行ったり、片付けをして頂いている	食材は委託業者で購入し、管理栄養士による献立を職員が厨房で調理している。嗜好調査が献立に反映できるように、職員が買い出しをすることもある。入居者の嚙下状態に合わせ、ミキサー食など工夫がされている。入居者と職員が毎食、同じテーブルを囲み、一緒に食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう支援している。、又、お一人お一人に合った食事形態で提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼間、夜間の声掛けを行い排泄パターンを習慣化できるように支援している。又、排泄が成功することが多くなり、リハビリパンツからショーツへ、トランクスへとなられた方がおられる。	見守りとトイレ誘導で排泄パターンを把握している。排泄を自立することが入居者と職員の喜びにつながっている。車椅子利用者のトイレ使用の便宜をはかるため、ドアの改善を検討している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握、補給、繊維物の摂取や、ウォーキング、体操など行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その方にあった入浴を行う。また、足浴、清拭などひとりひとりに合ったものも行っている。(発汗時、その他)	2ユニットとも右利きと左利き用の手すりが設置されている。1日おきに週3回、午前中から入浴を支援しているが、畑作業等の状況に応じて、また、希望があれば毎日、入浴できる。拒否のある方には、「お手伝いしてください」という声掛けの工夫や時間を置いて対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。眠れない時など一緒に 飲み物をのんだり、コミュニケーションをとったり、昼間の散歩などを行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。薬の変更など、朝礼時などで報告する。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報や、センター方式を利用し、できること、役割を持っていただき、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の中に外出を取り入れたり、地域の催し物などは極力参加できるよう支援している	田んぼや小川が見られる広い敷地内を散歩したり、ホーム前の畑で季節の野菜を育てて食べたりと楽しんでいる。敷地内にある施設のデイケア利用者との出会いもある。地域の地蔵さまで甘茶をいただいたり、ヤフードームへの観戦に出かける等年間の外出計画がある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方は、買い物時、ご自分で支払いされるように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外光や、外気温との調節を心掛けている。けばけばしい色使いを避け、落ち着いた生活ができるようにしている。加湿器や空気清浄機など使用している	玄関の周りにお花を植え、玄関には靴箱や椅子が設置されている。共用空間は2ユニットの間仕切りがあるが、開閉できる仕組みになっている。天窓から柔らかな光が差し込み、ゆったりとしたテーブルと椅子の配置で寛げる空間になっている。壁には日頃の活動で作成した、習字やちぎり絵の作品が飾られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気のあった利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を置いたり、家の筆筒を持ち込む方、家族の写真をおく方、馴染みの時計、ラジオなど置いている	居室の窓から、田んぼやホームの周囲に植えられた桜の開花や紅葉が見られ、季節を感じることができる。居室の入口にはそれぞれ工夫した表札と担当する職員の名前が表記されている。馴染みの日用品や家具、仏壇を持ち込む等個性的な部屋作りがされている。希望で畳敷きの部屋もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに目印をつけたり、お部屋の入口に表札をかけたり、解りやすい物をつけたりしている。又、カレンダー、季節の貼り絵、お花などを飾ったりして季節感を感じていただけるようにしている。		